



善正寺だより

〒:512-0902
三重県四日市市
小杉町1014
浄土真宗
本願寺派
善正寺
TEL:0593-31-1670
TEL:0593-32-0733

掲示板法話

長生きしても永遠に死なぬ者はない

浄土教こそ真に不老長寿の教えである

過日、「善正寺だより」の読者からお尋ねを頂きました。「質問の主は、高校の校長先生をなさった方で、専門は英語ですが、八十歳を過ぎた今も毎月寺報が届くと必ず「丁寧な手紙を送っていただきます。定年退職後、三重県下のお寺を描こうと来訪されて以来親しくして頂き、その向学心旺盛な活動ぶりにいつも感心させられます。」

「お正信偈の中の『本師曇鸞梁天子常向鸞処菩薩礼 三蔵流支授浄教 梵焼仙経帰楽邦』について疑問に思っていたことがあります。それは曇鸞大師(476~542)が三蔵法師から『仏説観無量寿経』を授かり、それまで帰依していた仙経を焼き捨てて楽邦(浄土教)に帰依された、とあります。ところがお二人の間には約一世紀の隔たりがあるようで疑問に思っているのです。善導大師(613~681)ならば、と思いつつ今日に至っています」というお尋ねです。

三蔵法師の「三蔵」とは、経蔵(お釈迦様の説かれた教え)、律蔵(お釈迦様が制定された戒律、生活規則)、と論蔵(それらの教説を体系づけて論述した



もの)のことです。そして、三蔵法師とは、三蔵に通じ、お経の翻訳を沢山成し遂げられた僧侶の敬称を指すのですから、何人かおられます。その中で最も有名な方が玄奘三蔵ですが、曇鸞大師が仙経を授けられて洛陽に戻ったとき(527年)出会ったのは、菩提流支(527年)出会ったのは、菩提流支三蔵だったのです。

一説によると、曇鸞大師は、菩提流支が通りかかったとき樹木の上で仙術を学んでいたが、「長生きしても永遠に死なぬ者はない。浄土の教えこそ真に不老長寿の教えだ」と教えられて驚きのあまり樹の上から転落した、と伝えられています。驚きが目覚めの仏縁なのでですね。この先生の貴重なお尋ねから私達の学ぶべきことがあります。

現代の日本は、歴史上は勿論、地球上でも最高の長寿国です。にもかかわらず、「長生きしすぎた」と嘆く高齢者があり、「長生きなどしたくない」とうそぶく子供たちを生み出す軽老国、これが悩ましい日本の現実です。「人生は長さだけではない。幅もあり

深さもある(金子大栄先生)という金言があります。人生の長さは個人の一生であり、幅とは不思議のご縁で結ばれた人間の生活。深さとはこの人生だけでなく、過去も未来も貫く智慧の光に触れてのみうなずくことのできる世界です。お浄土に支えられる人生は、政治も福祉も償うことのできない「生きてよし、死んでもよし」と人生を完全燃焼できる一生となる。このこと一つを見失っては人間に生まれた甲斐がないと肝に銘じたいものです。

おなじみの「正信偈」、習慣と情性で読み飛ばしていませんか?疑問を抱き尋ねる大切さを教えられました。合掌

☆行事ご案内☆

☆11月の門信徒会例会

11月20日(日)夜7時半

- ① 多重苦の日本(震災復旧、原発、人口減少、財政赤字、円高など)、我々はどう生きる?;発想の転換を!
- ② 報恩講シーズンに向けて;由来・意義、お勤め練習と解説

☆秋勸進11月23日(祝)午前8時より

午前中に行事さんが町内を巡回、行事さんはお磨きもしますご協力よろしくお願ひします。留守の場合はご連絡下さい。

◇キッズサンガ 11月5日(土)午後4時友達誘ってね

毎日夕方5時の鐘撞きは誰でもOK 飴ガム付。年中無休

◇三重組コーラス 智積西勝寺様で練習10/3(月)、11/1(火)いずれも午後1時半、11/8京都本山御堂演奏会バス7時半小杉11/15夜6時西勝寺報恩講 次回陽光苑慰問未定

◇12/3(土)夜7時半「お内仏報恩講」是非お参り下さい

◇一縁会テレホン法話059・354・14543分間法話聞けます

善正寺ホームページ「三重 善正寺」で検索。「つれづれ日記」が好評長男もブログに参加、満3年2ヶ月で5万3千アクセス達成!平均80以上の訪問(1日)に感謝!HPからのメール、悩み相談など大歓迎!ブログは毎日更新しています。ケータイからでも見られます。

来年4月21日(土)午後1時半「初参式」(三全仏婦主催)赤ちゃんや幼児を大募集中!地域の皆で子供の成長を祝福。参加費千円



平成23年度後半善正寺主な行事予定

- ※11/23(水)午前8時「秋勸進」とお磨き
- ※12/3(土)夜お内仏報恩講
- ◇12/23午前11時次男挙式

坊守スケッチ

分かってももらえぬ苦しみ

長年原因不明の病気で苦しんでいる女性がいる。若い頃尿管結石で腎臓を片方取る手術をした。それ以来、尿酸値が高くなるような食べ物控えられている。三十代の中頃、突然に全身が強ばる痛みが走り、高熱が出て一歩も歩けなくなった。診察の結果痛風と診断され、その治療を受けていた。その病気にはあの専門医がいいという噂を聞くと、どんなに遠くても出かけて診てもらった。おそらく健康人には想像出来ないほどの痛みや辛さが、彼女を医者の子を道へと走らせた。

不信感を抱く。「でも信じる者は救われるというから、焦らず待つことも大切よ」と私は言う。所詮健康な者の気休めとしか聞こえないかも知れないが、彼女の医者に対する不信感や不満・愚痴を聞くのが私の役目だ。

彼女のバックには十数枚の医者の診察券があった。内科、外科、泌尿器科、眼科、耳鼻科、歯科、リハビリなど、総合病院を巡るほど、一週間の予定はぎっしり埋まった。おまけに二年前は、何気なく受けた市の健康診断で、初期の大腸がんが発見されて手術。この手術を受ける前もセカンドオピニオンを求めて、国立がんセンターを受診した。同じ診断結果だったので、近くの病院で手術した。これほど医者通いをしていると、医師の態度やちょっとした言葉使いにも、普通の人以上に敏感に反応する。

目下の診断結果は『偽痛風』。痛風によく似た症状であるが、原因は不明。今まで大量に飲んできた薬の副作用が原因かも知れない？思い切った薬をしばらく減らして気分転換を図ることにした。それでボイストレーニングやコーラスを始めた。また笑いヨガにも参加し、趣味の園芸も再開。おかげで今のところ病院巡りの時間が空いて、心の余裕が生まれた。関心が病気から、自分の楽しみに移ってきた。まさしく『病は氣からの休息状態だ』

「あの医者では、少しもよくならない。本当に私の病名が何であるか、分かっているのではないかしら？」と

先日柳澤桂子著『いのちのことば』を読んで大変驚いた。柳澤さん自身も彼女と同じような経験をされた。「ある医師は『あなたの病名は分かりません』とはつきり言われた。医師の言葉を受け入れることはそれに耐えていく決心をしたこと。辛い症状を横に置いて淡々と生きる。ただそれだけのために生きていく意味を見出せるだろうか？もし病気をしたこと学んだことがあるとすれば、何の価値もない自分であることを肯定し、何の意



味もない人生を生きること喜びとすることを学んだことだろう。それに気づいたことが最高の恵みだった。この本を是非彼女にも薦めてみたい。同じ悩みを抱えた人の言葉は、きっと大きな励みや支えとなるだろう。

☆寄稿

四日市市川崎孝一
☆余薛子の穂 抜けば稔りの
嬉しかり
此処大八州 瑞穂国は

☆墓所整備 終え廃道に
無縁墓 大師詣での
此の徑おぼろ

♪三重組コーラス♪

☆練習場所は智積西勝寺様で、
☆11/1(火)午後1時半練習
☆11/8(火)本山記念音楽祭バス小
杉7時半、桜8時 時間厳守
11/15(火)夜西勝寺報恩講演

キッズサンガ・杉の子合唱団

☆11月5日(土)午後4時 友達を誘
つて来てね！夕方5時鐘撞きは毎日。
☆カンパ有難う☆
様・様・様他お志・切手有難うございました

☆ホットニュース☆

☆10/15(土)親鸞聖人750回遠
忌法要バス参拝、詳細は来月号に掲載

☆11/23(祝・水)「秋勤進」とお磨
き、行事さんが午前中巡回、留守の方はご連絡を下さい。ご協力よろしくお願
いします。

☆12/3(土)夜7時半「お内仏報恩
講」ご家族揃ってお参り下さい

☆12/23(祝)午前11時次男本堂
で挙式、お披露目の菓子を配ります
キッズサンガの女兒と親に酒盃のお
手伝いや菓子配布をお願いしました。

◇11月末に長男夫婦が新居に移り
ます。これからよろしくお願ひします。

☆善正寺のホームページ「三重 善正
寺」で検索可。毎日更新の「住職と坊守
のつれづれ日記」が好評。開設3年2か
月で5万3千突破1日平均80訪問

☆住職と坊守の2冊目の共著本『鳥の
眼・虫の眼・仏の眼』(自照社刊)好評発
売中！挿絵は門徒の服部雅之氏)

◇12月31日夜11時45分除夜の鐘、
誰でもつけます皆さんで来て下さい
☆来年(平成24年)4月21日(土)
午後1時半三全仏壇主催の初参式に参
加の赤ちゃん及び幼児を大募集！

☆ 編集子より ☆

「善正寺だより」第二一五号をお届けし
ます。◇今年も残り少なくなりました。
震災直後、未曾有の大地震・津波と言
われたが、歴史上二百年に一度の間隔
で起こっていたとの研究報告が続々…
近代科学、行政が先祖方の文献を無
視、軽視していたのだった。◇歴史に学
び将来への教訓にしなければ、と痛感。

秋の深まりを感じ、如何お過ごしですか？今年も残り二ヶ月と残り慌しさを感じます。原因不明の病気で苦しむ女性に『お救いが先』だから辛抱強く待つことよと云うと『オースクイカサキ』って何よ？』と質問されました。今までお説教に縁が無かった人にどう説明してよいか悩みました。『真ッ暗闇のトンネルの中にいる時、先に小さな灯りを見つけたら耐えることができよう。今年百歳を迎えられた日野原重明先生は『流れに従って流れに任せず』とおっしゃったわ。川を渡る時に激流に流されながらも、向こう岸に渡ろうとする目的を持つことが大切よ。痛みを耐えながらも阿弥陀様に全てお任せしてその光明を信じればきこえと救われるわ！年齢を省みずに健康を過信して若い時と同じように船が回っている私の方が却て思わぬ落とし穴にはまるかもしれない。もうここも来れば今までの経験を守記にまとめたら如何で、難病アドバタイザーになるくらいの開き直りが必要かもしれないと冗談交じりに言いました。『何でも気の持ち様一つで明るく過ごせるのね』と笑顔が返ってきた。ところで十月十五日には大型バス一台で親鸞聖人七五〇回大遠忌法要をお参りさせて頂きました。長男の嫁も初参拝し私には嬉しい報告が出来る記念すべき参拝となりました。十一月末には新居に移ります。どうか末長くお育て下さいませ。合掌 平成23年11月 善正寺坊守輝